

ユニセフ兵庫ニュース
Wish

世界の子どもたちのために

vol. **74**

2024年9月号



©UNICEF/UN0689688/Gilbertson

再開された学校で、ユニセフが配布した文房具を手にする女の子。(2022年8月13日 ウクライナ首都キーウ近郊)

CONTENTS

EVENT REPORT
2-5 2024 ユニ・ボラ塾 / 2024 国際理解講座

6-7 活動ファイル
2024年5月～8月

8 お知らせ

第1回

国連憲章を読もう



グループワーク：ランキングで学ぶ国際社会

第2回

国際人権法の
基礎の基礎

特権 ゴールに向かって歩き進むと次々と自動ドアがスーッと開いてくれるもの

マジョリティに対してドアが開きやすいしくみ
マイノリティに対しては自動ドアが開かないことも多い

第3回

平和学の世界
のぞ
を覗いてみる

子ども兵士について書かれた本の紹介とグループトーク



すえよし ひろふみ
末吉 洋文 さん

帝塚山大学法学部教授（国際法・平和学）。奈良県男女共同参画審議会委員。

EVENT

1

2024
ユニ・ボラ塾

「ユニ・ボラ塾」とは「ユニセフ・ボランティア塾」の略称です。兵庫県ユニセフ協会でボランティア活動をしている人たちのスキルアップを目的に、2006年から約20回開催してきました。

講師の末吉さんには、第一回のテーマ設定から関わっていただいています。これまで子どもの権利条約や人間の安全保障、ジェンダーなどのテーマの他、環境問題の専門家などによる特別講座も行いました。

今回は3回シリーズで開催。キーワードは「エンパシー」。相手の立場になりきって、相手の考えや思いを自分ごととして想像し理解する能力です。分断された世界において、私たち一人ひとりにできることは何かを考えました。ここでは参加者の感想も多く紹介しています。皆さんも思いを共有してみませんか。



Data イベントデータ

日時 / 参加者 第1回 5月25日(土) / 26人
第2回 6月29日(土) / 29人

第3回 7月27日(土) / 33人

会場 コープこうべ生活文化センター(神戸市東灘区)

参加者の感想から

特に印象に残っているのはグループワークです。異なるバックグラウンドを持った若者や社会人、年配の方々と率直に意見を交わすことができ、とても有意義な時間となりました。今回の活動を通じて、日本とは一見無関係に思えるグローバル 이슈が、実は身近な問題なのではないか、さらに、このような課題に対して私にも“地球市民”として何かできることがあるのではないかと考えるようになりました。

国連憲章について見ていくと、今起きていることとすごく矛盾があることが多いなと感じ、それぞれがしっかり向き合えないといけないのだと実感しました。

エンパシー、想像力を動かせて。なかなかむづかしいことですが心したい。

第1回では、国連憲章について学びました。末吉さんは、国際法とは何かという抽象的な話から国連憲章の具体的な内容まで、初学者にも分かりやすく解説されました。国際法は条約や協定のよきな主権国家どうしの約束事で、国連憲章もその一つです。ポイントは、国連憲章には武力行使の禁止、人権の国際的保障、民族自決権の承認、国際協力という現代国際法の特徴が列挙されていることです。グループワークでは、私たち市民が国連事務総長になったつもりで、気候変動・食料・水・ジェンダー平等・軍縮・貧困の根絶などの国連が選んだ24の地球問題群（グローバルイシュー）のどれに優先的に取り組むのかを考えました。私たちは地球市民としてまずできることは、国際社会の問題を国や立場を超え自分ごととして捉えて考えるエンパシーの能力を持つことです。

参加者の感想から

印象に残っているのは、第一に日本が人権先進国とは言い難いという事実です。ニュースを見ていて分かっているつもりでしたが、改めて日本政府の法政策やジェンダーギャップの世界ランキングを見てみると、遅れていると痛感しました。第二に、後半のアクティブラーニングです。私は地方出身なので、地方と都会の教育格差について特に問題意識を持っています。しかし、これはたまたま自分が地方出身であるためにそのように

考えているだけで、教育に関して地方と比べると特権を得やすい都会出身だったら大学や塾に行けること自体が紛れもない特権であるということに気づけていなかったかもしれないと思いました。

まずは身近なところから差別や人権について考えてみるのが大事なのではないかと活動を通じて感じました。

第2回では、国際人権法について学びました。国際人権法を学ぶ重要性、世界人権宣言・社会権規約・自由権規約の3つの国際文書や、難民、女子差別撤廃、児童の権利などの国際人権条約と個人通報を認める議定書などの話がありました。後半では、自分の席から前のカゴに入るように紙ボールを投げるというアクティブラーニングをしました。自分の席は社会での立場を表しています。この体験を通して自分のマジョリティやマイノリティ性に気づくことができました。高学歴・高収入・男性というようなマジョリティ性を多く持つ人が自分の「特権」を自覚すること、差別の問題を自分ごととして捉えられるようになり、そしてそれは社会の不正に対して誰もが声を上げやすくなる社会の実現につながります。ここでも大切なのはエンパシーの力です。

参加者の感想から

戦争がない世界が「平和」だと捉えがちだけど、実際は戦争がないからと言って平和とは言えないんだとわかった。だからこそ積極的平和に私たちが取り組んでいく必要があると感じた。視野を広げることも平和学につながると気付きました。柔軟な物事の考え方が大切だと思います。まずは社会の無関心に抵抗するためにも、積極的に平和を語ることを大切に学び続けたいです。

いかに自分の身に引きつけて考えることができるか。ユニボラ塾は私にとってとても良い機会になりました。

3つの暴力という考え方を初めて聞きました。直接的な実際の暴力に目がいていましたが、実はそれが構造的暴力だったり、そのニュースを目にしている私は文化的暴力に加担していないか、この暴力の概念を知れたことは大きかったです。

第3回では、平和学の多岐にわたる研究分野の一端を学びました。平和学では、平和を「消極的平和」と「積極的平和」に区別しています。消極的平和は直接的暴力（戦争や言葉で傷つけるなど）がないだけの状態で、積極的平和は構造的暴力（社会構造の中に組み込まれている搾取・抑圧など）や文化的暴力（戦争を容認する意識や無関心など）がない状態のことです。1999年、オランダ・ハーグで開かれた平和とアピール世界市民会議で採択された「公正な世界秩序のための10の基本原則」には、日本国憲法第9条のことが書かれています。唯一の戦争被爆国でもある日本の果たすべき役割を私たちは考えねばなりません。あらゆる可能性を模索し、対立を超越する方法で紛争を解決する演習や、身近な戦争遺跡の調査などの取り組みも紹介されました。

国際理解講座①

ミャンマーの子どもたちの願い
～彼らの置かれた現状

国際理解講座②

子どもたちの
未来の話をしよう

▲今日のメニューは、野菜たっぷりルワンダ風オムレツ、ドーナツ、レモンガラスジンジャーティー。
ピラヨージェ! (ルワンダ語でおいしい!)

国際理解講座③

世界遺産というアプローチ
一心の中の平和のとりで

ルワンダの RUBINGO SCHOOL の生徒たち。2012 年第 2 回アフリカスタディツアーにて。

EVENT

2

2024
国際理解講座

兵庫県ユニセフ協会は、設立 10 周年を機に、多くの講師の方から学んだことや 2 回のアフリカスタディツアーで気付いたことを多くの人に伝えていきたいとの思いから「国際理解講座」を始めました。今年で 12 年目、延べ 80 人以上の講師の方々から話をお聞きしました。

講師の方々の話は多岐にわたり、グローバル時代の世界の見方や紛争地で生きる人々のこと、個人の活動が他の人々とつながり社会全体の活動になっていくことなど、多くを学びました。報道だけでは伝わらないことがたくさんあり、自分にできる国際交流や国際協力について考えるきっかけにもなりました。

国際理解講座はいつでも誰でも参加できる講座です。お気軽にお越しください。

ここでは、2024 年に予定しています 5 回の講座のうち、3 回が終了しましたので報告します。

* 2024 年国際理解講座は、公益信託兵庫県婦人会館ユネスコ基金の助成を受けて行っています。



Data イベントデータ

日時 2024年4月28日(日)
会場 東川いたみホール(伊丹市)
参加者 100人
主催 兵庫県ユニセフ協会、伊丹ユネスコ協会
共催 伊丹市

ナン ミャ ケー カインさん(写真左)

京都精華大学特任准教授。1989年に来日し、立命館大学で国際関係学博士号を取得。卒業後は複数の大学で非常勤講師を務める。通訳・翻訳業のほか、母国ミャンマーでは日本語学校や出版社の運営にも携わる。

ただし

安田 直史さん(写真右)

近畿大学社会連携推進センター教授。医師。大阪大学医学部、ジョンズ・ホプキンス公衆衛生大学院卒。国立国際医療センター、JICAを経て2005年からユニセフ職員としてミャンマー、ベトナム、タンザニアの保健、衛生、HIV、母子保健対策に関わる。

ミャンマーでのクーデターから3年が経過し、国内では依然として戦闘が続いており、多くの命が失われています。2021年2月に発生した軍によるクーデターは、スーチー政権で民主化への希望を抱いていた市民の間で大きな反発を引き起こしました。医療関係者を皮切りに、大学教員や学生が参加する不服従運動(CDM)が広がり、今も続いています。軍は教師たちを強制的に学校に戻し、授業を再開させようとしています。休校状態の学校も多くあります。

学を目指す難民や移民の高校生が学ぶ学校も存在します。ミャンマーの子どもの支援を続けるカインさんは、子どもたちが家に帰りたいと願っているが、生き延びることが最優先だと強調します。安田さんは、学校は教育の場であると同時に、子どもたちの発達や心の安定にも寄与すると述べ、子どもたちが安心して眠り、遊び、学べる環境の重要性を説きます。また、クーデター後に始まった徴兵制から逃れるために、多くのミャンマーの若者が日本に来ており、彼らを学校や地域で受け入れることができなにか、私たちができることを考えるべきだと訴え、ミャンマーの人々への支援と理解を求めました。



Data イベントデータ

日時 2024年6月11日(火)
プログラム 第1部 ルワンダカフェ
「ルワンダを知る&ルワンダを食べる」
第2部 講演会
「ルワンダ、ジェノサイドから30年
命に感謝 平和と教育の大切を未来に繋ぐ」
会場/参加者 さらら仁川北館/27人
さらら仁川南館/43人
後援 コープこうべ第1地区本部、第2地区本部

とわり 永遠瑠 マリールイズさん

1993年青年海外協力隊のカウンターパートナーとして来日し福島で洋裁研修を受ける。翌年帰国直後、内戦が勃発し難民キャンプへ。その後再来日し2000年「ルワンダの教育を考える会」を立ち上げ、キガリ市内に学校を設立。2012年日本国籍取得。2014年外務大臣表彰受賞。龍谷大学短期大学部客員教授。

マリールイズさんが子どもの頃は、卵や塩は貴重品。小麦粉は無く、キャッツパ粉と青バナナを混ぜてヤシ油で揚げてドーナツを作っていました。内戦が勃発して幼い子ども3人と逃げ込んだ難民キャンプで思いついたのは支援物資の小麦粉を使ってドーナツを作ること。その売上で日本の友人に助けを求めるひらがなのFAXを送る姿を見た日本人医師に通訳の仕事が頼まれたというエピソードがあつて、マリールイズさんのドーナツは今ある命の原点ともいえる食べ物なのです。

マリールイズさんは各調理台を廻りながら料理のコツやルワンダの暮らしを話しました。料理を作り皆で食べるという日常こそが大事。戦争になればそんな当たり前のことができなくなり。平和を自ら手放さないようにと締めくくりました。講演会では、30年前のジェノサイド前後のルワンダの歴史やその時の経験、教育の重要性を語りました。内戦後に作った学校では、子どもたちが安心して学んでいます。また、母子の栄養改善活動の成果、広島で被爆した柿の木の種類をルワンダに植えたことなど平和活動にも話が及びました。平和と教育の大切さとルワンダのいい所を伝えていくのがライフワークと言うマリールイズさんは、「この国の未来を自分事として関心をもち、なぜ?と考える話し合い、やりたいことに一歩踏み出して」と若者に呼びかけました。



Data イベントデータ

日時 2024年7月14日(日)
会場 あいめっせホール(姫路市)
参加者 100人
主催 兵庫県ユニセフ協会、(公財)姫路市文化国際交流財団
後援 岡山ユニセフ協会、コープこうべ第6地区本部、第7地区本部

とま 山本・リシャル登 眞さん

2005年フランス・リヨン市生まれ。3カ国にルーツを持ち4カ国で暮らした経験を持つ。東京大学文科一類(法学)在学。2016年冬、11歳で世界遺産検定の最高位「マイスター」を史上最年少で取得。世界遺産アカデミー認定講師。2022年6月に『WOWファクター』(小学館)を出版。

1972年、文化遺産、自然遺産を人類全体の遺産として守っていくために世界遺産条約がユネスコ総会で採択されました。姫路城は日本で最初に登録された世界遺産の一つです。1994年にはレンガや石材など耐久性建材に加え木造建築の修復も正当なものとして認められるように、必要に応じて変更を加える世界遺産条約は生きた国際法として価値を高めています。時を経て感動し何かを美しいと思える感覚や人類が築き守り伝えてきたポジティブな側面が世界遺産にはあります。

山本さんはびっくりするほど優れていたり、美しかったり、畏敬の念を抱いたりと言葉にできない感動を表す「WOW(感越える)ことができます。自分が生き活きとできる場所や感動しやすい環境に身を置き、WOWファクターを貯金し、WOWを思い出せば困難を乗り越えることができます。ユニセフが先進国38か国の子どもたちを対象にした調査では、興味深い結果が出ています。日本は自殺率も高く精神的幸福度で37位でした。身体的幸福度1位、物質的にも豊かな国であることを考えるとまさにパラドックスです。このパラドックスの解決にはやはりWOWファクターです。自分が生き活きとできる場所や感動しやすい環境に身を置き、WOWファクターを貯金し、WOWを思い出せば困難を乗り越えることができます。



1 トライやる・ウィーク

日時 2024年6月3日(月)～7日(金)
参加者 神戸市立本庄中学校 坂井晃さん 富山綾乃さん
中村龍人さん

今年も兵庫県ユニセフ協会へ中学2年生3人が体験学習にやってきました。学校では出来ない様々な活動を通して「生きる力」を育むことが目的のトライやるウィーク。事務室の清掃、外国コインの仕分け作業、絵本のワークショップ、ポスター制作、最終日の街頭募金と5日間多様なプログラムにチャレンジ。3人は真摯に取り組み、SDGs、貧困・戦争・差別など世界の子どもの実情について学び、ユニセフ活動への理解を深めました。



2 ユニセフ全国協定地域組織学習講師研修会

日時 2024年6月14日(金)
場所 ユニセフハウス(東京都港区) / オンライン

(公財)日本ユニセフ協会は、ユニセフ学習会講師として活動するボランティアを対象に毎年研修会を行っています。今年は全国から約45人が参加しました。

学習講師研修会に参加して

学習講師研修会で一番心に残ったことは、出前講座でユニセフが伝えたいテーマ「子どもの権利について知ってもらうこと、その権利を守るために何ができるのかを子どもたちに考えてもらう」ということです。

そのために考えられた「ユニセフ教室」や「子どもの権利条約」のモデル授業を通して、子どもたちへの伝え方を学びました。また、識字をテーマにした地域組織の取り組み紹介では、子どもたちに体験してもらって伝えるという方法に感銘を受けました。

私は、研修会で学んだことを心に留め、子どもの権利をわかりやすく伝えられる講師になりたいと思いました。(佐伯 紀恵)



Activities File 活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴

2024年5月～8月

活 動 一 覧

Activities List

学習会一覧

月日	訪問先	対象	人数
5月10日	横尾コープ委員会	大人	13
6月12日	塩瀬コープ委員会	大人	6
7月4日	赤穂市立尾崎小学校	6年生	59
7月11日	兵庫県立伊丹高等学校	1年生	40
7月23日	明石市立高丘東小学校児童クラブ	小学1年～6年	94
8月1日	芦屋放課後児童クラブひまわり学級	低学年	120
8月3日	みんなの尼崎大学サマーセミナー	大人	16
8月20日	箕面コープ委員会	大人	6
8月26日	あさひ児童館(神戸市)	小学1年～6年	60

地域活動一覧

月日	イベント名
5月25日	2024ユニ・ボラ塾第1回「国連憲章を読もう」
6月11日	2024国際理解講座②「子どもたちの未来の話をしよう」(宝塚市)
6月24日～7月9日	ユニセフ写真パネル展「ウクライナ危機から1年～紛争下の子どもを支えるユニセフの緊急支援～」
6月29日	玉本英子さんギャラートーク
6月29日	2024ユニ・ボラ塾第2回「国際人権法の基礎の基礎」
7月14日	2024国際理解講座③「世界遺産というアプローチ 一心の中の平和のとりで」(姫路市)
7月27日	2024ユニ・ボラ塾第3回「平和学の世界を覗いてみる」
8月17日	平和企画 映画『ガザ 素顔の日常』&現地報告(オンライン)(明石市)

当協会所有のウクライナ写真パネル(玉本英子さん撮影)の貸し出し
8/5～8/18 広島県ユニセフ協会

トライやる受入 6/3～6/7 神戸市立本庄中学校2年生3人

フィールドワーク生訪問 6/29 兵庫県立大学学生10人

7/7 兵庫県立葺合高等学校1年生1人

インターン生受入 8/1～8/31のうち6日間 大手前大学3年生2人

募金一覧

2024年3月～6月

学校・団体名
兵庫県立伊川谷高等学校ボランティア部、石光商事(株)、コープこうべユニオン、伊藤ハム(株)、生活協同組合コープこうべ、コープサークルアネモネ、Kansai Global Society、北野たこ平
ご協力ありがとうございました。(兵庫県ユニセフ協会関係分 敬称略、順不同)

Information

事務局ニュース



兵庫県ユニセフ協会の事務所入り口前には、平和、教育、貧困などユニセフの活動に関連した本や絵本が並ぶ棚があります。一度のぞいてみて下さい。

3

ユニセフ写真パネル展

ウクライナ危機から1年 ～紛争下の子どもを支えるユニセフの緊急支援～

期 間 2024年6月24日(月)～7月9日(火)

会 場 コープこうべ生活文化センター1階ロビー

2022年2月に戦闘が激化し平和な日常が一変したウクライナ。国土は荒廃し子どもたちも深刻な被害を受けています。軍事侵攻から1年間のユニセフの支援内容をパネルで振り返るとともに、映像ジャーナリスト(アジアプレス所属)玉本英子さんの最新取材写真でウクライナの今を知る写真パネル展が開催されました。

ユニセフのパネルでは、安全な水を提供する様子や、子どもへの予防接種、文具をもらい笑顔の子どもたちの写真などから、ユニセフが子どもたちと家族のために、保健、水と衛生、栄養、心のケアなどの支援を行っている様子がわかります。

また、6月29日には「ウクライナ 戦火の市民と子どもたち」という題でギャラリートークが行われました。紛争の中の女性や子どもに視点を当てて取材活動を続ける玉本さんは今年も2月から3ヵ月間ウクライナを訪れました。家族を戦火で失い深い悲しみの中にい



る遺族や、地下鉄駅構内の学校での対面授業を喜んでいる子どもたちなどの取材映像や写真とともに南部オデーサ、前線地帯オルヒウ、北東部ハルキウなどの現状が語られました。最後に「他の国で苦しんでいる人々の姿は自分たちの未来を見据えることにつながります。関心を持って心を向けてください」と話されました。

4

平和企画

映画『ガザ 素顔の日常』
& 現地報告(オンライン)

日 時 2024年8月17日(土)

会 場 ウイズあかし子午線ホール

参加者 80人

主 催 兵庫県ユニセフ協会、コープこうべ

映画は、イスラエルとイスラム組織ハマスとの衝突が続くガザ地区で暮らす人々の日常を記録した2019年制作のドキュメンタリーです。渡辺真帆さんの現地報告を挟み2回上映されました。



© Canada Productions Inc., Real Films Ltd.



© Canada Productions Inc., Real Films Ltd.

▲ 海外留学で国際法や政治学を学びたいと思いつつも現実逃避するためにチェロを奏する少女。

◀ 明るく客を迎える海辺のカフェの店主

ガザ地区は地中海に面し長さ50km、幅5～8km、東京23区の6割ほどの面積に約200万人が住む世界で最も人口密度が高い場所の一つです。イスラエルが建てた壁やフェンスに囲まれ、出入りも厳しく制限され「天井のない監獄」と呼ばれています。ガザの人口の8割は難民、若者の失業率は6割を超えています。現在は海も封鎖され、国連などの支援物資に頼る生活を余儀なくされています。映画は、閉ざされた中でも精一杯生きる人々の日常を映し出していました。地中海に面した穏やかな美しいビーチを訪れる老若男女やサーファー、普通の大学生、船長になり兄弟たちと一緒に漁に出たいと語る少年、車いす生活を送りながら思いの丈を歌うラッパー。一方、壁やフェンスの前で石を投げたりタイヤを燃やす若者、爆弾の投下に逃げ惑う人々、救助に当たる人々も映していました。国境周辺での応酬は、夢見ること叶わない自由を奪われた若者の憂鬱のはけ口になっていました。人びとは、「平和が欲しい。ただ普通に暮らしたいだけ」と語っていました。

渡辺真帆さん現地報告

渡辺さんは、最新のデータを示しながらガザの実情を詳しく話されました。インフラの破壊が繰り返され、電気は殆ど供給されず、ゴミ処理施設の破壊が衛生状態悪化を生み、ポリオの流行が懸念されています。物資を運ぶトラックの台数も今回の紛争で1日約500台から約80台に減少しました。渡辺さんが支援する団体はユニセフと共同で、現地のNGOを通して高エネルギービスケットを配布しました。事態の改善には一刻も早い停戦が必要だと締めくくられました。



渡辺 真帆さん

通訳。翻訳者。東京外国語大学アラビア語専攻卒。ピールゼイト大学(ヨルダン川西岸)留学。演劇を中心にパレスチナの芸術文化の紹介や作品制作に携わる。スイス在住。

撮影：山畑俊樹

ユニセフ募金 Donations For Unicef

■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ガザ人道危機	ガザ K1-280 兵庫	00190-5-31000
ウクライナ	ウクライナ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道危機 K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ栄養危機	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
ロヒンギャ難民	ロヒンギャ K1-280 兵庫	00190-5-31000

*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
*郵便局窓口から専用振込用紙を使って振り込むと手数料は免除されます。専用振込用紙は事務局にありますのでご連絡ください。



いつでも
どこでも
気軽に募金

<https://www.unicef.or.jp/sp/>

Wish^{vol.74}

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2024年9月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081

神戸市東灘区田中町 5-3-18

コープこうべ生活文化センター 2F

電話：078-435-1605 (平日 10:00 ~ 16:00)

FAX：078-451-9830

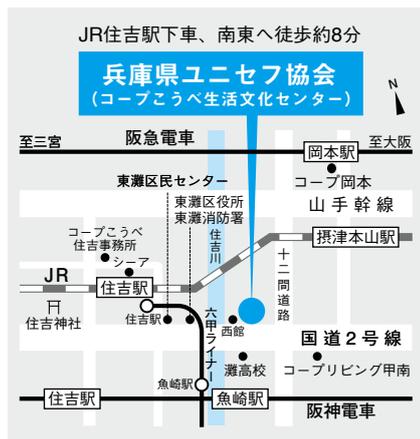
E-Mail：h-unicef@kobe.coop.or.jp

●最新の情報はホームページで

<https://unicef-hyogo.jp/>

兵庫 ユニセフ

検索



Join Us 主催イベント

各日程等は変更になることがあります。
詳細はホームページをご覧ください。

参加費
無料

2024 国際理解講座④⑤

※この講座は、公益信託兵庫県婦人会館ユネスコ基金からの助成を受けて実施します。

④ 「人生を変えるアフリカ」



日時 11月16日(土) 13:30 ~ 15:30
会場 神戸市教育会館ホール
講師 大津司郎さん(アフリカジャーナリスト)
甲斐信好さん(拓殖大学副学長)
定員 100人
後援 兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第3地区

国際理解講座おなじみのおふたりの息の合った話をお聞きしながら、いま日本に問われていることを考えてみませんか。

⑤ 「戦火のこどもたちと女性をみつめて～取材映像で伝えるウクライナ」

日時 12月7日(土) 13:30 ~ 15:00
会場 神戸市教育会館ホール
講師 玉本英子さん(アジアプレス所属ジャーナリスト)
定員 100人
後援 兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第3地区



現地取材されたジャーナリストの方ならではのリアルなお話しを、現地での映像を交えながらお聞きできる予定です。

ユニセフ写真パネル展「困難な状況下の中に生きる子どもたち」

日時 9月24日(火) ~ 9月30日(月)
会場 コープこうべ生活文化センター
協力 大阪ユニセフ協会

参加申込みはホームページ上の申込みフォームでも受け付けています。

お問い合わせ
TEL 078-435-1605

News お知らせ

第46回ハンド・イン・ハンド募金活動

日時 2024年12月22日(日)

詳細は、兵庫県ユニセフ協会のホームページをご覧ください。

第23回ユニセフのつどい

日時 2025年3月1日(土)

ユニセフのつどいは、兵庫県ユニセフ協会のお祭りです。会場の都合で例年より早い時期での開催ですが、どうぞご予定ください。

Booth 出展参加

9月21日(土)	玉津のつどい場たまろっと
10月6日(日)	うみかぜ音楽祭(舞子公園)
10月19日(土)	姫路市医師会看護専門学校文化祭
11月12日(火)	地球のステージ(神戸市立向洋中学校)
11月19日(火)	永遠瑠マリルイズさん講演会(神戸朝鮮高級学校)
11月20日(水)	永遠瑠マリルイズさん講演会(兵庫県立明石高等学校)
12月8日(日)	「地球のステージ」(加古川市民会館)

ユニセフ出前学習会



学習会の講師派遣を行っています。
オンラインでの開催も可能です。
お気軽にお問い合わせください。

ユニセフ ひょうご サポーター

賛助会員募集中
賛助会員となって、兵庫県ユニセフ協会の活動を支えてください。お申し込み、お問い合わせは事務局までお願いいたします。



ユニセフひょうごサポーター
入会申込書

unicef